

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 7 月 5 日現在

機関番号：12101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02580

研究課題名(和文)カンボジアにおけるSDGs達成にむけた教員改革-産業人材育成と学ぶ権利の保障

研究課題名(英文)Teacher Reform toward SDGs in Cambodia: Human Resource for Industrial Development and Right to Education

研究代表者

野田 真里(NODA, Masato)

茨城大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：90334995

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、カンボジアのSDGs達成にむけた教育改革、特に教員改革について同国教育青年スポーツ省(MoEYS)との国際共同研究を行った。教員養成大学設置・教員養成課程の高度化による教員の質の向上に注目し、「質の高い教育」と「包摂的で公正な教育」(SDGs目標4)という「二重の教育課題」について分析した。

第1に、上位中所得国入りを目指し産業高度化を進める中で必要な、産業人材の育成と教員改革について検討した。第2に、新型コロナ禍等カンボジアが直面する地球規模課題の中で、SDGsの「誰一人取り残さない」理念や学ぶ権利を保障しSDGsの担い手育成にむけたESDのための教員改革について考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本国際共同研究成果の学術的・社会的意義として、SDGs目標4を軸に「二重の教育課題」つまり、カンボジアの経済成長に不可欠な産業人材育成のための「質の高い教育」と、その陰で「取り残される」人々への「公正かつ包摂的な教育」の諸課題について教員政策を中心に解明した。新型コロナ禍が浮き彫りにした教育の脆弱性やデジタル化への取り組み等、新たな視点から研究を深めた。また、国際ワークショップ等を通じてマルチステークホルダーとの連携やエンパワーメントを図った。そして、教育青年スポーツ省(MoEYS)や国際協力機構(JICA)との連携を通じて、同国の教員政策への貢献や日本の対カンボジア教育協力への寄与を行った。

研究成果の概要(英文)：This international joint research with the Ministry of Education, Youth and Sports (MoEYS), Royal Government of Cambodia examined education, especially teacher reforms for 'inclusive and equitable quality education' (SDG 4) to achieve the SDGs. The government conducted teacher reform and launched teacher education colleges to upgrade teachers with bachelor's degree holders. In this context, the study analysed the 'dual issues of education' as follows.

Firstly, for quality education, the study examined the development of industrial human resources and teacher reforms required in Cambodia toward upper-middle-income country. Secondly, for equitable and inclusive education, it analysed the teacher reforms for education for sustainable development (ESD) to ensure right to education. It aligned with the 'leave no one behind', the SDGs motto in the context of the global issues Cambodia faces, such as COVID-19 Pandemic, and foster the leaders to tackle with these challenges toward SDGs.

研究分野：教育社会学 国際開発

キーワード：カンボジア SDGs(持続可能な開発目標) 教員改革 経済成長と人材育成 包摂的かつ公正な質の高い教育 新型コロナ禍 地球規模課題 ESD(持続可能な開発のための教育)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1. 研究開始当初の背景

カンボジアは、内戦やポルポト派の圧政・虐殺、紛争等によって経済社会全体が大きなダメージを受けた。教育においても、今日までその影響は続いている。1992年のパリ和平協定を機に、日本をはじめとする国際社会の支援のもと、カンボジアは順調な復興の道を歩み、近年では年率7%の経済成長を遂げており、低所得国を脱却、下位中所得国入りを果たした。教育セクターにおいては、量的拡大すなわち基礎教育へのアクセスは大幅に改善したものの、低い修了率等の質の向上が大きな課題となっている。

カンボジアは国連SDGs(持続可能な開発目標)の観点からみた場合、目標4の「質の高い教育」と「包括的かつ公正な教育」という問題に直面してきた。つまり、経済成長の担い手たる産業人材育成の育成と、こうした経済成長やグローバル化の中で「取り残される人々」への「学ぶ権利の保障」という、位相の異なる「二重の教育課題」への取り組みである。経済のグローバル化や、ASEAN経済共同体(AEC)等により域内経済統合が急速に進むなかで、カンボジアは上位中所得国入りを目指している。カンボジアの主要産業の一つである縫製業では低廉で豊富な若年人口を活かして輸出を伸ばしている。こうした労働集約型産業は、経済成長とこれに伴う賃金上昇により、早晩、こうした優位性を保てなくなる、いわゆる「中所得国の罠」に陥るリスクがある。これを回避し、持続可能な経済成長を達成するためには、産業の構造の高度化と多様化が不可欠であるため、「産業開発計画(IDP 2015-2025)」が実施され、高度な産業人材育成のための「質の高い教育」が求められてきた。その一方で、こうしたグローバル化の進展にともなう急激な社会の変化から「取り残される」児童・生徒や教育格差の問題が深刻化してきている。経済成長の陰で首都プノンペン等の大都市と農村地域の格差が顕在化し、また、気候変動等の地球規模課題による影響も深刻化してきている。

こうしたカンボジアの「二重の教育課題」の解決にむけて、「質の高い教育」と同時に、「包括的かつ公正な教育」も求められてきており、カンボジア教育訓練スポーツ省(MoEYS)による「教育戦略計画2019-2023」の下、様々な教育改革の取り組みが行われてきた。とりわけ児童・生徒の学力向上と学ぶ権利の保障に繋がる教員の役割は大きく、教員改革が喫緊の課題となっており、「教員政策行動計画2015-2020」が策定、実行されてきた。甚大なダメージを受けたカンボジア教育の復興過程において、教員養成も徐々にアップグレードされてきた。小・中学校の教員は、中等教育修了後、州や地域の教員訓練センター(PTTC/RTTC)で2年間のトレーニングを受けたのち、教員として採用されてきた。カンボジアでは教員の質のさらなる向上にむけて、教員養成課程の学士化・4年制化が推進され、その先駆として首都のプノンペン特別市と第二の都市である西部バタンバンにおいて、4年生の教員養成大学(TEC)への移行が進められてきた。教員養成大学の設立には、日本は大きな役割を果たしており、国際協力機構(JICA)による「カンボジア国教員養成大学設立のための基盤構築プロジェクト(E-TEC project 2017-2022)」は、現行の2年制の小・中学校教員養成校を4年制のTECへのアップグレードにむけて、TECの戦略計画の策定や、シラバス・教材の開発、教員の選定等をおこなってきた。

### 2. 研究の目的

本研究では、カンボジアが直面する次の「二重の教育課題」を同時に解決するという困難な問題にたいして、国連持続可能な開発目標(SDGs、とくに目標4)を軸に、教員改革に焦点を当てて、現状と課題、解決策について明らかにすることを目的とした。第1に、経済成長著しいカンボジアにおいて、産業構造の変化に対応する産業人材の育成のための「質の高い教育」の実現にむけた現状と課題、解決策を分析することを目的とした。第2に、グローバル化の進展により地球規模課題に直面する中で、「取り残される人々」への「学ぶ権利の保障」となる「包括的かつ公正な教育」を実現にむけた、現状と課題、解決策を分析することを目的とした。

そして、こうした「二重の教育課題」への取り組みにおいて大きな鍵となる、初等中等教育における教員改革とくに「生涯学び続ける専門家」としての教員の質の向上にかかる現状と課題、解決策について明らかにすることを目的とした。その際、カンボジアにおける教員の質を規定する歴史、文化、経済、社会及び法・制度等の諸要因を明らかにし、教員の質向上と「質の高い」教育を実現するためのメカニズムの解明と開発協力の政策インプリケーションを含む教員政策についてその有効性を吟味することを目指した。

### 3. 研究の方法

本研究では、カンボジア教育青年スポーツ省(MoEYS)のHang Chuong Naron大臣の承認のもと、上記の目的を達成するために、同省教育総局の政策立案者や教育研究評議会(ERC)の研究者等をカウンターパートに、国際共同研究を行った。研究の実施にあたり、次の学術的「問い」を立てた。メインクエスチョンとして「カンボジアにおけるSDGsの達成にむけた包括的で公正な質の高い教育のための教員改革の現状と課題そして解決策は何か?」という問いを立てた。そして、これに関わる構造的「問い」として次の3つのクエスチョンをたて、カンボジア側と協働

して研究を進めた。第1に、「グローバル化、地域経済統合の下での産業開発のための産業人材の育成に向けた教員改革の現状と課題そして解決策は何か？」第2に、「SDGs や持続可能な開発のための教育(ESD)を展開していく中での教員養成教員改革の現状と課題そして解決策は何か？」そして、第3に、「マイノリティ等に配慮しSDGsの「誰一人取り残さない」理念を実現し、学ぶ権利を保障するうえで求められる教員改革の現状と課題そして解決策は何か？」である。

これらの学術的「問い」を解明するため、MoEYS との国際共同研究を次の方法等で実施した。

研究の範囲：

本研究においては教員政策のうち、特に教員の質の向上に焦点を当てて分析した。教員政策は、国際的な潮流で重視されている3分野(教職の高度化、待遇と教員配置、教員評価)のうち、特に教員養成の高度化に焦点を当てて研究を進めた。

対象地域・期間：

首都プノンペンでは、教育青年スポーツ省(MoEYS)、プノンペン教員養成大学(P-TEC)、王立プノンペン大学(RUPP)、インクルーシブ教育・障害児教育に取り組むNGO、Rabbit School、体育科教育支援に取り組むNGO、Heart of Gold等への調査を行った。また、地方においても西部の主要都市バットアンバン州のバットアンバン教員養成大学(B-TEC)や東部のスバイリエン州等でも調査を行った。

研究方法：

文献調査はもとより、現地調査として、インタビュー、質問票調査、授業観察、フォーカスグループディスカッション、参加型ワークショップ等を行い、定性的・定量的分析を行った。また、日本とカンボジアの両研究チームによる定期的な国際共同研究会(オンライン・対面)等を、両国の研究者はもとより、カンボジア教員改革にかかわる実務者等も招いて開催した。

マルチステークホルダー・ワークショップ：

本研究の方法論的特徴として、コロナ禍等により制約があったものの、教員改革にかかわるマルチステークホルダーとの連携や参加を重視してきた。最終年度にプノンペンにおいて国際ワークショップを開催、政府の政策立案者はもとより、開発機関、国際機関、NGO/市民社会、大学・研究機関、教員等の主要なステークホルダーが参加し、研究を深めた。同ワークショップでは、Cambodia Teacher Education and Future toward SDGs-Inclusive and Equitable Quality Education for SDGs-4C と題し、特にSDGsのターゲット4-C即ち、「2030年までに、開発途上国・・・における教員研修のための国際協力などを通じて、質の高い教員の数を大幅に増加させる」に焦点を当てた研究発表や議論をおこなった。

#### 4. 研究成果

カンボジア教育青年スポーツ省(MoEYS)との国際共同研究を通じて、次の成果を上げることが出来た。第1に、上記の通りSDGs目標4を軸とした「二重の教育課題」つまり、上位中所得国入りを目指すカンボジアの産業人材育成のための「質の高い教育」と、経済成長やグローバル化の陰で「取り残される」人々への「公正かつ包摂的な教育」にかかわる諸課題について、教員政策を中心に分析することが出来た。具体的な成果としては、「SDGsの達成に向けた、人材開発と包摂的な教育のための教員改革」、「教える専門家から学び続ける専門家への教員像の再考」、「教員の質の向上にむけた、教員養成改革」の解明等である。

第2に、研究開始当初では想定されていなかった、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)パンデミックによる、カンボジア教育への影響について、新たな視点から研究を深めることが出来た。COVID-19により当初予定していた現地調査等は延期を余儀なくされたが、半面、COVID-19は、カンボジアの抱える脆弱性、とりわけ教育分野における「取り残される」児童・生徒や家庭の問題を浮き彫りした。教員政策においても、教員のオンライン授業等の教育のデジタル化、「取り残される人々」への対応等の新たな課題や可能性について、問題意識を深めることが出来た。具体的には、「COVID-19パンデミックにおける学習過程の質的分析」について、教室での教員と児童・生徒の活動に焦点を当てた分析等を行うことが出来た。こうした点をふまえて、今後の重要な研究課題として、次の点に注目していきたい。カンボジアにおけるコロナ禍からの復興やポスト/ウィズ・コロナにおける教育や教員政策の課題やあり方等の分析を行っていきたい。また、COVID-19の教訓をふまえて、新興感染症や気候変動等の地球規模課題に対応するための、カンボジアにおける教員や教員政策の在り方について、持続可能な開発のための教育(ESD)の視点から、分析を行っていただければ幸いである。

第3に、カンボジア MoEYS とくに教育総局の政策立案者をカウンターパートとした共同研究をつづけて、同国の教員政策に寄与するフィードバックを行うことが出来た。本研究の成果は、新たな「教員政策行動計画(TPAP)2024-2030」への貢献が期待される。また、TPAPは2023年に発足した新政権の国家開発政策である「五角形戦略・フェーズ1」の一環であり、カンボジア政府は教育セクターに重点をおいて人的資本開発をすすめており、高いスキルや創造性、起業家精神、イノベーション等をそなえた産業人材の開発をすすめている。本研究プロジェクトを大所高所からご指導いただいた、Hang Chuong Naron 大臣は、新政権では副首相を兼任しており、本研究プロジェクトの成果の、教育セクターはもとよりカンボジア全体の開発政策への貢献が期待される。

第4に、本研究においては、研究協力者として国際協力機構(JICA)の専門家とも連携してお

り、本研究の成果を日本が中心となって支援してきたカンボジア教員養成改革等の国際協力プロジェクトへのフィードバックを行うことが出来た。また、カンボジア日本国大使館とも意見交換等をおこなっており、本研究成果の日本対カンボジア国別開発協力方針等、国際協力政策への貢献が期待される。日本はプノンペン及びバットンバンの教員養成大学（P-TEC, B-TEC）の質の向上にむけ新たに、「カンボジア国教員養成大学強化を通じた基礎教育の質改善プロジェクト（S-TEC）」を2024年にスタートさせており、本研究の成果を踏まえて、日本のカンボジア教育への国際協力に資する研究を行っていくことが期待される。

第5に、本研究の特色である、カンボジア教育をめぐるマルチステークホルダー連携とキャパシティ向上に寄与することが出来た。カンボジア教育青年スポーツ省とのパートナーシップはもとより、カンボジアのプノンペン教員養成大学や王立プノンペン大学等の教員養成機関や研究機関との連携、日本の国際協力機構（JICA）や世界銀行等の開発機関やNGO市民社会とも連携を図ることができた。今後につき、本研究を通じて構築したパートナーシップをさらに発展・強化させ、カンボジアの質の高い公正で包摂的な教育にむけて、教員改革を中心にさらなる研究を行い、同国の国家目標である上位中所得国入りや持続可能な開発に寄与することが期待される。

最後に、本研究の総括としてプノンペンで開催した国際ワークショップにおいて、マルチステークホルダーとの議論を通じて、現在および将来の教員支援のための戦略的計画が提案された。その骨子は以下の通りである。

#### 教員養成：

教師教育者のアップグレード、コンピタンスベースの教育、教員免許制度、教員教育機関（TEI）のアカウンタビリティと透明性、優れた人材の教育プロフェッショナル候補者として勧誘と選抜等。

#### 現職教員研修：

学校文化、学校ベースマネジメント（SBM）、教員の継続的専門能力開発（CPD）、プロフェッショナルラーニングコミュニティ（PLC：チームワーク、協働、同僚間関係）、監視やモニタリング等。

#### 教員の就業、配置とキャリアパス

モチベーション、資格に基づくインセンティブ、評価等。

これら全体において、公正、社会正義、包摂が重要なテーマとなる。

今後につき、より実効性のある政策提言と政策の実現にむけて、マルチステークホルダーとの連携をさらに深め、研究を深めていく必要がある。カウンターパートのMoEYSをはじめカンボジアやマルチステークホルダーからは、本研究成果にもとづく今後の国際共同研究のさらなる深化が期待されている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Ogisu, Takayo and Hagai, Saori	4. 巻 Online
2. 論文標題 Localizing Transnational Norms in Cambodia: Cases of ESD and ASEAN Citizenship Education	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Compare: A Journal of Comparative and International Education	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/03057925.2023.2170696	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荻巣崇世	4. 巻 13
2. 論文標題 「境界」としての学校 カンボジアの学校教育を通じたベトナム系住民の排除と包摂	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 境界研究	6. 最初と最後の頁 65-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14943/jbr.13.65	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野田真里	4. 巻 42
2. 論文標題 新型コロナ禍における人間の安全保障とSDGs - グローバル危機の最前線に立つ地域社会 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 179-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.57278/wiapstokyu.42.0_179	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荻巣崇世	4. 巻 64
2. 論文標題 カンボジアにおける学校に行けない子どもたち (OOSC) - 境界線から学校教育を考える -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 比較教育学研究	6. 最初と最後の頁 100-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fredriksson Ulf, N. Kusanagi Kanako, Gougoulakis Petros, Matsuda Yaka, and Kitamura Yuto	4. 巻 12
2. 論文標題 A Comparative Study of Curriculums for Education for Sustainable Development (ESD) in Sweden and Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/su12031123	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Williams James H., Brehm Will, and Kitamura Yuto	4. 巻 23
2. 論文標題 Measuring What Matters? Mapping Higher Education Internationalization in the Asia and Pacific	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Comparative Education and Development	6. 最初と最後の頁 65-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/IJCED-10-2020-0071	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計20件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 9件)

1. 発表者名 Noda, Masato
2. 発表標題 Halfway of SDGs to 2030
3. 学会等名 Japan Society for International Development, the 34th Annual Conference
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 野田真里
2. 発表標題 SDGsと人間の安全保障の再考
3. 学会等名 国際開発学会第24回春季大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ashida, Akemi
2. 発表標題 Do Students Learn Actively during the Class?: Analysis of Teacher's and Student's Activities in the Classroom under the COVID-19 Pandemic
3. 学会等名 13Th Biennial Conference of Comparative Education Society of Asia (CESA) 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ogisu, Takayo
2. 発表標題 A Making of Cambodian Teacher Education: Competition and Coordination among Donors, Ministry, Teacher Educators, and Future Teachers
3. 学会等名 13Th Biennial Conference of Comparative Education Society of Asia (CESA) 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Chhinh, Sitha
2. 発表標題 Digitalizing Early Grade Reading Assessment (EGRA) as an Initiative to Realize SDG 4.2: Cambodian Case
3. 学会等名 13Th Biennial Conference of Comparative Education Society of Asia (CESA) 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Dy, Samsideth
2. 発表標題 Recent Reforms in Teacher Development in Cambodia
3. 学会等名 13Th Biennial Conference of Comparative Education Society of Asia (CESA) 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Noda, Masato
2. 発表標題 Cambodia Teacher Reform and Education Policy Responding to Crisis-Toward SDGs in Post/with Corona Society-
3. 学会等名 13Th Biennial Conference of Comparative Education Society of Asia (CESA) 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ogisu, Takayo
2. 発表標題 Developing a Research Career in the Field of International Education Development
3. 学会等名 Japan Educational Research Association (JERA) 81st Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 荻巣 崇世
2. 発表標題 カンボジア教授法改革史の検討 - 権力と教授法の関係に着目して -
3. 学会等名 日本比較教育学会第58回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ogisu, Takayo
2. 発表標題 Education and Sustainable Development Cooperation: Japanese Experiences
3. 学会等名 Japan Society for International Development, the 33rd Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 芦田明美、北村友人、Chhinh Sitha
2. 発表標題 カンボジアにおける教授学習過程の解明：教員と学習者の授業内活動に関する考察
3. 学会等名 日本比較教育学会第58回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野田真里
2. 発表標題 サスティナビリティの仏教的アプローチ
3. 学会等名 日本学術会議環境学委員会環境思想・環境教育分科会環境教育の思想的アプローチ検討小委員（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Noda, Masato
2. 発表標題 SDGs and Human Security for 'Leave No One Behind' in the With/Post COVID-19 World
3. 学会等名 Jeju Forum on Peace and Prosperity 2021（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Noda, Masato
2. 発表標題 SDGs, Education and Teacher Reform toward 2030 in Cambodia -Issues and New Challenges under COVID-19 Pandemic-
3. 学会等名 Japan Society for International Development, the 32nd Annual Conference
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kitamura, Yuto, Akemi Ashida and Chhinh Sitha
2. 発表標題 Examining the Quality of Education in Cambodia via a Review of Classroom Activities and Interactions
3. 学会等名 Japan Society for International Development, the 32nd Annual Conference
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ogisu, Takayo
2. 発表標題 What makes Professional Learning Communities (PLC) work in Cambodian Schools?: Lessons from Japanese Professional Development Models
3. 学会等名 Japan Society for International Development, the 32nd Annual Conference
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 荻巣崇世
2. 発表標題 独立後カンボジアにおける教授法の脱植民地化の試み : チェット・チェムの指導書に着目して
3. 学会等名 日本比較教育学会第57回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 荻巣崇世
2. 発表標題 カンボジアの学校に行けない子どもたち
3. 学会等名 課題研究 『学校に行けない子どもたち(OOSCY)とは: アセアン諸国における就学阻害要因と教育協力ネットワークの展開』、第57回日本比較教育学会大会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野田真里
2. 発表標題 「SDGsからみた新型コロナウイルスと国際開発」
3. 学会等名 国際開発学会第22回春季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Noda, Masato
2. 発表標題 'Japan's Challenges and Good Practices of Education in the Crisis of COVID-19 -For Our Common Future of SEA and Japan'
3. 学会等名 'Resilience and Connectivity during COVID-19 Outbreak', South-East Asian Ministers of Education Organization (SEAMEO) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 Kitamura, Yuto, Ashida, Akemi and Ogisu Takayo	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 2100
3. 書名 Equity, Quality, Post-Neoliberalism, and the Knowledge Society of the Future. In: Lee W.O., Brown P., Goodwin A.L., Green A. (eds) International Handbook on Education Development in Asia-Pacific.	

1. 著者名 Kayashima, Nobuko, Kuroda, Kazuo and Kitamura Yuto	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 365
3. 書名 Japan's International Cooperation in Education: History and Prospects	

1. 著者名 Brehm, Will, Thongdeunane Nanthavone, Somsanit Larvankham, and Yasushi Hiroshato	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Teachers College Press	5. 総ページ数 216
3. 書名 "Finding Unity in Diversity: Public Identity Patterns in Lao PDR" in Memory in the Mekong: Regional Identity, Schools, and Politics in Southeast Asia, pp. 153-176	

1. 著者名 Kitamura, Yuto and Will Brehm (eds.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Teachers College Press	5. 総ページ数 216
3. 書名 Memory in the Mekong: Regional Identity, Schools, and Politics in Southeast Asia	

1. 著者名 Ogisu, Takayo	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer Nature	5. 総ページ数 287
3. 書名 Reforming Pedagogy in Cambodia: Local Construction of Global Pedagogies	

1. 著者名 荻巢 崇世、橋本 憲幸、川口 純	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 256
3. 書名 国際教育開発への挑戦	

1. 著者名 北村友人・萩巢崇世・芦田明美	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 368
3. 書名 「SDGs時代における「学び」のあり方を「文化」の視点から捉え直す」、関根久雄編『持続可能な開発における 文化 の居場所』、91-114頁	

1. 著者名 野田真里	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 368
3. 書名 「SDGsとNGO・市民社会 - 「誰一人取り残さない」ボトムアップの社会変革と「包摂的な文化」にむけて -」、関根久雄編『持続可能な開発における 文化 の居場所』、71-90頁	

1. 著者名 佐藤 真久、北村 友人、馬奈木 俊介	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑波書房	5. 総ページ数 158
3. 書名 SDGs時代のESDと社会的レジリエンス	

1. 著者名 Kitamura, Yuto and Will Brehm (eds.)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Public Policy Innovation for Human Capital Development	5. 総ページ数 166
3. 書名 Asian Productivity Organization	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	廣里 恭史 (HIROSATO Yasushi) (40262927)	上智大学・グローバル教育センター・教授  (32621)	
研究分担者	北村 友人 (KITAMURA Yuto) (30362221)	東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・教授  (12601)	
研究分担者	荻巣 崇世 (OGISU Takayo) (00743775)	上智大学・総合グローバル学部・助教  (32621)	
研究分担者	芦田 明美 (ASHIDA Akemi) (30749164)	名古屋大学・国際開発研究科・准教授  (13901)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 International Workshop on Cambodia Teacher Education and Future toward SDGs- Inclusive and Equitable Quality Education for SDGs-4C	開催年 2023年～2023年
---	--------------------

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
カンボジア	教育青年スポーツ省(MoEYS)		